



迎春

2019年もよろしくお祈いします。

仲嶺 真弓

年末に、2018年9月4日に大阪を直撃した台風21号の爪痕のひとつだった門が設置されました。待ちに待った門の設置は、2019年の新しい門出のようで気持ちのいい始まりとなりました。園庭側の門はワゴン車でも出入りしやすいように、少し間口を広げました。駐車場が満車になったときは、園庭を駐車場として開放しますので利用してください。人が出入りするエントランスの門もリニューアル。子どもたちがすり抜けていけないよう格子にしにしました。クリアボードにしようか…とも考えたのですが、山風が強いつばさでは風圧で割れてしまう可能性が大きいということで、風がすり抜けていけるよう木の格子に決定しました。門の開閉は、今まで通り左側から右側に引いてください。門の錠は、はめ込み式のものになっています。門の中側に筒状の錠がついていますので、その筒を上にあげると錠がはずれる仕組みです。門と錠の開閉は必ず大人がしてください。よろしくお祈いします。交流室側の裏門も新しい門に変わっています。唯一寂しいのは、エントランスに毎年花を咲かせてくれていた桜の木の枝をくぐって園内に入れなくなったことですが、ひよこ組小園庭に移植したので、春には駐車場から桜の花がみられることを心待ちにしたいと思います。



2019年は新天皇に皇位が継承され、元号も新しくなります。少し前は、大正・昭和・平成と3元号を生き抜いた祖父母を「すごいなあ」と感心していた自分が、昭和・平成・〇〇と同じ3元号の時代を生き抜くことになるとは…とあらためて実感しています。新しい元号の世はどんな年になっていくのだろうかと考えつつ、2018年年末の平成天皇の最後の記者会見公務のお話を聞きました。平成天皇のお話はとても身近に感じ、心に響きました。終戦後の平和を祈り続けたひた向きの思いは次の世代でも紡いでいきたいと強く思いました。紡ぎ手は私たち大人です。次の世代の子どもたちにどんな未来を手渡せるのか今を生きるこの国を支えている働き手の私たちが真剣に考えていかなければならないとあらためて襟をただした新年の始まりです。

園庭の2か所の砂場に砂が入りました。子どもたちはさっそく砂山登りに夢中でした。砂はOB保護者の木岡さんがトラックで調達してくださいました。ホール小園庭側の砂場までは、トラックは入れないのでネット販売の袋入りの砂を購入し、職員が運び砂入れしました。その時ちょうど2号公園で遊んでいたつばさ卒園児4人の男子に声をかけると、快く砂入れ作業を手伝ってくれました。卒園後も多くの人がいっぱい形で保育園と関わってもらえることに感謝です。

